

優秀賞



山梨知彦

設計担当者

山梨知彦

東京建築士会、(株)日建設計



恩田 聡

共同設計者

恩田 聡 青柳 創

東京建築士会、(株)日建設計

東京建築士会、(株)日建設計



青柳 創

戸建住宅(専用) | 栃木県日光市

On the water

構造 | RC造、一部S造、SRC造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 1,325.16㎡

建築面積 | 640.50㎡

延べ面積 | 751.92㎡

竣工 | 平成27年5月20日



選評

今年、最大の問題作である。

日本の近代建築は少しばかりの時差を胎んで、今、世紀末を迎えている。恐らくは共有する歴史認識であろう。世紀末、すなわち、行き着くところまで辿り着き、乱熟期の只中に入った。

日本の近代建築に未来があるとすれば、その担い手の中枢はゼネコン(請負)の設計者群、あるいは組織事務所の中枢に在ろう。何故ならば彼等はたくさんの現実のモノを設計する機会に恵まれているからだ。グローバリズムの強大な波に抗するには、その方法を同様に持つしかあり得ないだろう。まさに建築の現実が持たざるを得ない大逆説である。

作者はすでに「木材会館」等の作品をキャリアとして持つ。こ

れは20世紀を代表する建築様式がオフィスビルであり、他では無いのを鋭く先験的に示し、ゆえに傑作である。作者のこの建築に於いて、ル・コルビュジェの破格の名作ラ・トゥーレット僧院と ^{On the water} 同様に傾斜地が持つ力学を参照しつつ、フランク・ロイド・ライトの多様な造形力をまで想わせる。そして日本三景の「宮島」の海上建築を踏んでいる。庭園建築のカテゴリーを新たに産み出したとも言えよう。

が、しかし、ありとある建築様式に終末が在ると同じに、この建築には末期に特有の乱熟そして ^{びらん} 糜爛の兆しも色濃く見える。

(石山修武)

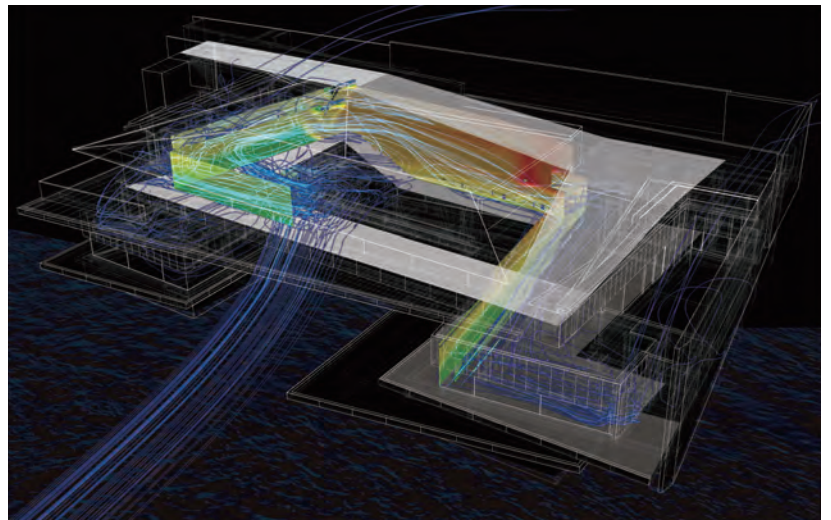


2

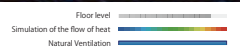
写真1、5…野田東徳 (雁光舎)
 写真2〜4…藤井浩司 (ナカサアンドパートナーズ)



3



シミュレーションダイアグラム (BIMモデルを活用した自然通風と温熱環境のシミュレーション)



4



5

- 1 外観
- 2 リビング
- 3 中庭
- 4 屋上
- 5 夜景